

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名：岩崎 良太郎 所属：平塚市立土屋小学校

課題名：地域の自然・人とのかかわりを重視した生活科・総合学習

1. 課題の主旨

本学区の豊かな自然環境を対象とした生活科・総合学習を実施した。豊かな自然にたっぷり浸り、遊び、課題を見つけ解決する力を育てることをねらいとして、全学年授業研究を行った。

身近にある地域素材を活用して、ものづくりや遊び場づくりをおこなったり、長期の栽培活動による作物を料理して味わったり、草花や虫と親しみ遊んだりする活動を通して生まれてくる、問題や疑問、工夫してみたいことや不思議体験を解決してきた。その過程で、仲間や周囲の人たちと学び合い、かかわり合う力、自己表現の力を身につけるよう配慮してきた。

身近な学区の自然環境や人的環境を豊かに取り入れた活動が展開できた。

2. 活動状況

各学年の活動の概略を報告します。

つちやののはらにとびだそうー1年

豊かな自然環境を活かし、身近な植物や生き物とふれあい、自然に親しみ、生き物を大切に育てる態度を養うことがねらいである。

幸い裏庭には四季を通じて、たくさんの種類の草花が咲き、虫が活動する。子どもたちは、校庭や学校周辺を探検し、名前を調べ、遊び方を教え合っていく。草花の汁を絞ってジュースづくりに夢中になったり、オオバコ相撲に負けて強いもの探しをしたり、シロツメ草を編んだりしながら、手触りやにおいなどの特徴まで体ごと覚えていくことができた。



だいすきつちやたんけんたいー2年

学校から地域に活動を広げ、探検する。豊かな自然や温かい地域の人とのふれあいを通して気づきや関わる力を育てる活動である。四季を通しての活動である。季節ごとに同じ場所に行き変化を知り、季節感も味わうことができる。実践をふり返るといくつかのポイントがあった。

一つは同じ場所に複数回探検に行くことで、「今度は〇〇しよう。△△を持って行って〇〇しよう。」という活動の深まりが生まれることであった。その活動を通してこそ、四季の変化も気づくことができるのであった。二つ目は、子どもの視点を定めることである。この時期の子どもは、大まかな季節感という視点は持たない。目の前の具体的な植物や虫に注目する。ここに視点を当てるのが有効であった。

土屋のしぜんたんけんー3年

はじめての総合学習で、理科や社会の教科との関連を持たせ、年間を通して「生き物調べ」を

することを通して進んで自然に関わり、生まれる課題を自ら解決していく活動である。

今回は生き物中心で展開した。虫や小動物探しは、発見から調査、飼育に広がり、ダイナミックに展開した。調べ学習は図鑑、インターネットを活用しているうちに飼育方法も見つけ、飼ってみようということになった。最後には今まで調べてきた小動物についての発見を紙芝居やペープサート劇、ニュースとして発表し、まとめることができた。

竹で楽しみを作ろう・伝えようー4年

竹は子どもたちにとって親しみのある素材である。竹とんぼ、水鉄砲、竹馬の体験を持っている。また、地域には豊富にあり、加工もしやすい。この竹を利用し、季節の遊びや行事に合った竹工作活動を中心に展開し、実体験をもとにした課題解決の力を付ける活動である。

一本の大きな竹を提示された子どもたちは、夏はそーめん流し活動、秋は竹でっぼう、ぶんぶんごま、コースター作り、冬は凧、竹とんぼ、竹ぼっくり作りを行った。この時期の子の「切る、削る、結ぶ、貼り付ける」という技能向上にも的確であった。

基地公園づくりをしようー5年

学校の裏庭広場に、地域の自然や環境を活かした材料を使って、みんなが遊べる基地、公園を仲間と協力して作り、見通しを持って活動できる力をつける活動である。

「めっちゃ楽しい5年アイランド」という名称を付けた公園作りを長期に渡り実行した。計画、設計、許可申請、グループわけ、作るもののイメージ共有、材料・道具の確認、材料集め、作業手順の確認、作業、片づけ、招待、解体と長期の活動であった。この時期の子どもたちには、見通しを持って活動する良い体験であった。

ようこそ「さつまいもレストラン」ーつちや級

本校では、生活科・総合学習で全学年栽培活動を実施している。障害児学級でも、ジャガイモ、キュウリ、ピーマン、さつまいも、トマト、とうもろこし、インゲン、オクラなどを育てている。

今回は、育ててきたさつまいもをよその人にも食べてもらうために、調理を工夫したレストランを開き、楽しみながら進んで活動する力を育てる活動である。子どもたちは、たくさんのレシピから「さつまいもとベーコンのほっくり煮」「茶巾しぼり」を選び、看板、招待状を作り、調理し、もてなし、片づける一連の活動をやり遂げることができた。

6年1組THE公園ー6年

学校の裏庭広場に、地域の自然や環境を活かした材料を使って、みんなが遊べる、公園を仲間と協力して作り、見通しを持って活動できる力をつける活動である。

ジャンボ滑り台を竹を使って作る活動である。今までの経験を生かして、見通しを持った活動ができ、ダイナミックな滑り台が完成した。高学年らしく、作業の段取りが早く、スピード感がある活動が展開した。



3. 結果

一年間に亘る長期間の活動構成では、子どもの思いや願いを大切にし、価値ある学びが生まれるよう活動の見通しを探ってきた。本校の特色である豊かな自然環境を素材とする体験活動は、豊かな学びを生んでくれた。

地域自然素材は、身近にあり、子どもの関心を引きつけ、五感豊かに体験できる素材である。その素材を、各学年の段階に応じて、見つける、探る、調べる、育てる、作る活動として展開してきた。今回は、栽培物、草花、果実、虫、小動物、竹や樹木が中心だったが、近くの川や川の生き物、なども広がりのある素材である。さらには、探検を通して地域の歴史や遺産に触れ、郷土の歴史を調べる学習に発展したこともある。

自然素材の体験活動を通して、自然の豊かさを実感することができた。

4. 今後の課題と発展

自然素材との関わりを通して、子どもたちは様々な力をつけていく。この力を「つきたい力」として位置づけ、本校では学習過程上、三つの価値として置いている。「学び合い、かかわり合う力」「表現し、発表する力」「課題をつかみ、探求する力」の三つである。体験活動を中心に据えながら、三つの力が身に付くよう活動を構成している。子どもの願いを見取り、三つの力をつける活動構成の工夫はこれからも追究していく課題である。

また、これまでの自然素材のほかに、新しい素材の開発も課題である。

さらに、地域の人的・物的環境の活用も課題である。今回は触れていないが、活動の中で保護者や地域の高齢者・公民館などの協力を頂いている。今後、もっと開拓する必要がある。さらに、地域の地理的な環境、歴史的な環境にも広げる必要も感じている。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

財団の援助に感謝しています。消耗品として購入した竹細工の工具一つにしても、活動に広がりや意欲の向上を与えることができました。大事に使います。またの機会には、お願いします。